佐久市埋蔵文化財調査報告書　第２７０集

長土呂遺跡群
下聖端遺跡Ⅶ

長野県佐久市長土呂下聖端遺跡Ⅶ発掘調査報告書

2020．3
佐久市教育委員会

例　言

1. 本書は、株式会社土屋ホームが行う宅地造成工事に伴う長土呂遺跡群下聖端遺跡Ⅶの発掘調査報告書である。
2. 調 査 原 因 者　　株式会社　土屋ホーム　佐久支店　支店長　茂木　靖
3. 調 査 主 体 者　　佐久市教育委員会
4. 遺跡名及び調査面積　　長土呂遺跡群　下聖端遺跡Ⅶ（ＮＫＳⅦ）　　96㎡
5. 所在地　　佐久市長土呂字南聖原５３０-１他
6. 調査期間　　令和元年９月３日～９日（現場発掘作業）
　　令和元年９年10日～令和２年３月（報告書作成作業）
7. 調 査 担 当 者　　冨沢一明
8. 本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡　例

1. 遺構の略記号は、住居址（Ｈ）・ピット（Ｐ）である。
2. 挿図の縮尺については、挿図中にスケールを示した。
3. 遺構の標高は遺構ごとに統一し、水糸標高を「標高」とした。
4. 土層の色調は、1988年版『新版　標準土色帖』に基づいた。
5. 挿図中のスクリーントーンは以下のことを示す。

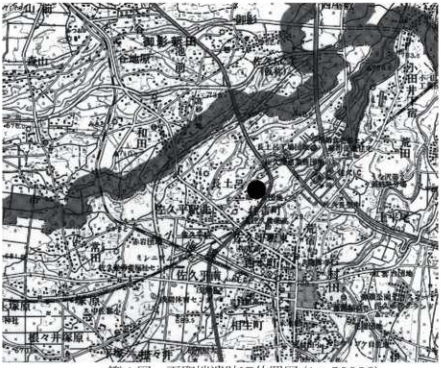
地山　焼土　掘方

遺跡より八ヶ岳を望む

目　次

例言・凡例・目次
第Ⅰ章　発掘調査の経緯
　１．経過と立地
　２．調査体制
　３．調査日誌
　４．遺構・遺物の概要
　５．標準土層
　６．調査の方法
第Ⅱ章　遺構と遺物
　１．竪穴住居址
　２．ピット
　３．調査の成果

写真図版
抄　録



第１図　下聖端遺跡Ⅶ位置図（1：50000）

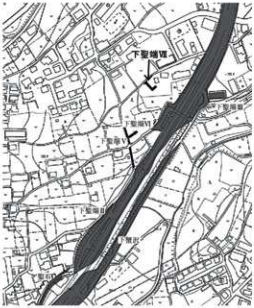
第Ⅰ章　発掘調査の経緯

1.経過と立地

下聖端遺跡Ⅶは、佐久市長土呂に所在し、長土呂遺跡群の中ほどに位置する。遺跡は、佐久平北部にみられる「田切り地形」の台地上に立地し、台地周辺の海抜は 730 m前後を測る。

本遺跡の周辺では、数多くの遺跡が調査されている。同じ台地上の聖原遺跡は古墳時代後期から平安時代に及ぶ竪穴住居址や掘立柱建物址が 1000 棟近く発掘調査された。出土遺物としては、平安時代の竪穴住居址から出土した「仏鉢形土器」には、見込み部に「佛」、体部外面に「甲斐国山梨郡大野郷戸」と古代甲斐国の地名が土器を擦るような暗文技法で表記されており、非常に特殊な土器と理解されている。

今回、遺跡群内で昨年度に引き続き株式会社土屋ホームにより宅地造成工事が計画され、市教育委員会に文化財保護法 93 条の届出がなされた。市教育委員会では対象地の試掘調査を行い遺構が発見された為、遺跡の保護措置がとれない道路部分を中心に、記録保存目的の発掘調査を行うこととなった。



第２図　周辺遺跡位置図 (1：3000)

2.調査体制

調査受託者	佐久市教育委員会	教育長　棚澤晴樹		
事　務　局	社会教育部長	青木　源		
	文化振興課長	東城　洋		
	企　画　幹	吉田　晃		
	文化財調査係長	山本秀典		
	文化財調査係	小林眞寿	羽毛田卓也	冨沢一明
		上原　学	久保浩一郎 (4 月～ 11 月)	
	調　査　員	小林妙子	橋詰信子	堀篭まゆみ　堀篭保子
		柳澤孝子	田中ひさ子	

3.調査日誌

2019年６月27日	株式会社土屋ホームより土木工事等のための埋蔵文化財発掘の届出。
７月５日	長野県教育委員会へ市教育委員会より元佐教文振第1224－2号土木工事等のための埋蔵文化財発掘の通知について(副申)
７月10日	長野県教育委員会より元教文第７－699号にて周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について(通知)
８月９日	株式会社土屋ホームより埋蔵文化財調査費概算見積依頼が提出。
８月20日	株式会社土屋ホームと市教育委員会で埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結する。
９月３日～９日	記録保存目的による開発対象地の発掘調査を行い、引き続き報告書作成作業を行う。
2020年３月	埋蔵文化財調査告書を刊行する。 記録類・出土品を整理保管しすべての業務を終了する。

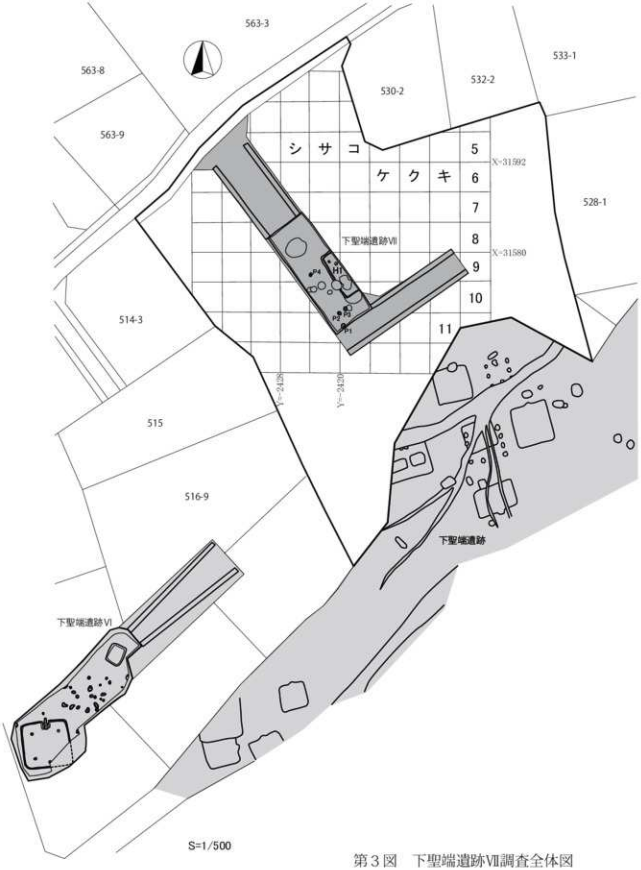
４．遺構・遺物の概要
　遺　構　　竪穴住居址　１軒（古墳）　　単独ピット
　遺　物　　土師器（坏・甕）　石製品（敲き石・磨石）

５．標準土層
　今回の調査地点は南西方向に僅かに傾斜する田切台地上で、基本層序は３層に分かれる。Ⅲ層上面が遺構確認面である。確認面深さは地表より 20 ～ 40㎝ほどであった。
　第Ⅰ層　10YR4/1　褐灰色土 耕作土しまり弱い。
　第Ⅱ層　10YR2/1　黒色土　しまりあり。小粒の軽石を含む。
　第Ⅲ層　10YR6/8　明黄褐色土　しまりあり。Ｐ１層

６．調査の方法
遺構調査・遺構測量
　住居址は均等に４分割し、対面する２区画を掘り下げ土層の観察・記録を行った後完掘し、床面を精査し、柱穴・カマド等を適宜分割し、土層の観察・記録を行い、最終的に平面の記録を行った。
　遺物は分割した各区毎に取り上げ、床面上の遺物に関しては連続する№を付け３次元の記録を行い取り上げた。土坑は長軸方向に沿って２分割し、半裁により土層の観察・記録を行った後完掘した。遺物は遺構№で一括した。溝址は短辺方向に任意の場所で区分し、土層を観察・記録した。遺物は区毎に取り上げた。遺構外の遺物はグリット毎に取り上げた。平面図・断面図ともに調査区内に設定した基準杭を利用した遣り方測量により調査担当及び調査員が実施し、縮尺は 1/20 を基本とした。
遺構・遺物の整理等
　遺物洗浄は竹ブラシを用い手でおこない、室内で乾燥させた。注記は白色のポスターカラーにより行い、薄めたラッカーをその上から塗布した。遺物接合はセメダインＣを使用し、遺物復元の際の充当材はエポキシ系樹脂を用いた。遺物実測は手取りで行った。遺物の保管に際しては報告書を台帳として、報告書掲載遺物と未掲載遺物に区分し、コンテナに分類ラベルを貼り収蔵庫に収納した。図面は遺構を 1/40 で修正、遺物を 1/1 で実測し、それぞれ仮図版を作成した。
写真・報告書
　現場での写真は、デジタル一眼レフカメラによるＲＡＷ画質モードと、35㎜一眼レフカメラによるカラーリバーサルで同一カットを各々記録した。
　遺物写真はデジタル一眼レフカメラで撮影し、ＥＰＳデータ形式で報告書に使用した。報告書挿図はアドビ社製の「イラストレーター」で作成し、表についてはマイクロソフト社の「エクセル」で作成した。写真･拓本はアドビ社製「フォトショップ」により補正加工を行った。これらを最終的に「インデザイン」により頁単位で編集し、印刷原稿とした。

第Ⅱ章　遺構と遺物

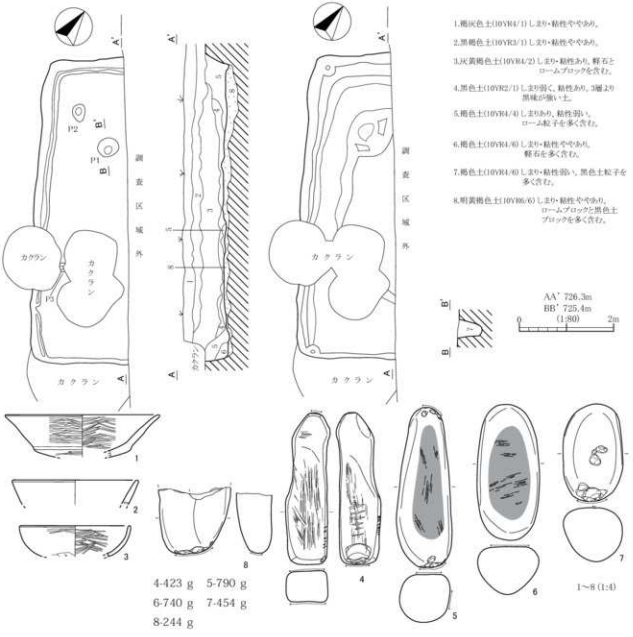
１．竪穴住居址
（１）Ｈ１号住居址
　本址は調査区中央で検出された。本址の東側２/３は調査区域外となりカマド等は検出されなかった。西壁と南西コーナー付近は近世と考えられるカクランにより削平されていた。規模は、南北長が 6.0 m、東西長が 1.66 mを測る。壁高さは西壁南寄りで 0.44 mを測り、壁直下には壁溝が確認された。床は 0.09 ～ 0.26 mの厚さで貼られており、中央部が顕著に硬かった。ピットは３か所が確認され、規模はＰ１が径 0.45 m・深さ 0.50 m、Ｐ２が径 0.37 m・径 0.15 m、Ｐ３が 0.20 m・径 0.45 mを測る。Ｐ１は主柱穴の一つと考えられる。住居址床の掘方は中央部が高くなるタイプの掘方で 0.05 ～ 0.17 m程周辺部より高く掘り残されていた。



第３図　下聖端遺跡Ⅶ調査全体図

出土遺物は覆土を中心に出土した。１～３は土師器の坏である。１は体部に顕著な稜を持つタイプの坏であり、口縁部が大きく外反する。３は口縁部がやや内椀するタイプの坏であり、内面に粗いミガキが施されている。４～８は石製品で、４と５は磨りと敲きの使用痕が顕著である。特に４は条痕状の擦りが顕著である。６は磨り石、７と８は叩き石である。

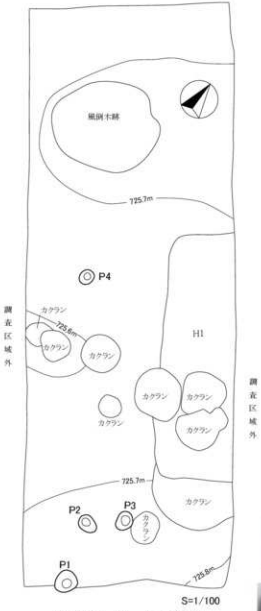
本址からの出土遺物は非常に少なく、所産時期の特定は困難であるが、周辺部の調査事例や住居形態から古墳時代後期（６世紀代）に比定されると考える。



第４図　Ｈ１号住居址及び出土遺物実測図

２．ピット

今回の発掘調査では４個のピットを検出した。調査区幅が狭いため掘立柱建物址を構成する可能性は否定できないが、単独ピットとして報告する。　規模はＰ１が径0.62 m・深さ0.22 m、Ｐ２が径0.53 m・深さ0.20 m、Ｐ３が径0.54 m・深さ0.20 m、Ｐ４が径0.43 m・深さ0.21 mを測る。形態はほぼ円形であり、遺物はいずれのピットからも出土しなかった。

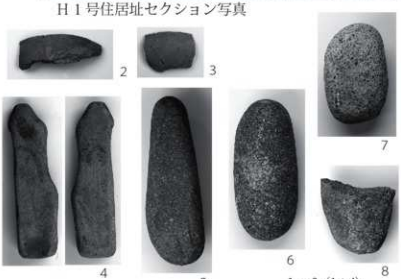


第５図　ピット実測図

Ｈ１号住居址全景

Ｈ１号住居址セクション写真

1



2 3 4 5 6 7 8

1～8（1：4）

４．調査の成果

今回は 96㎡という限られた面積の発掘調査であったが、昨年のⅥ次調査や周辺部の調査成果を重ね合わせることにより古墳時代後期の集落域がおぼろげながら見えてきたことは大きな成果と言える(第３図参照)。

今後も小規模な発掘調査や個人住宅建設に伴う工事立会を行うことにより、情報を積み重ね下聖端遺跡全体の遺跡様相を把握していくことが重要であろう。

報告書抄録

ふりがな	ながとろいせきぐん しもひじりはたいせきなな
書名	長土呂遺跡群 下聖端遺跡Ⅶ
副書名	
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第270集
編著者名	冨沢 一明
編集機関	佐久市教育委員会 社会教育部 文化振興課
所在地	長野県佐久市中込2913 TEL0267-63-5321 FAX0267-63-5322
発行年月日	2020年3月

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積 (㎡)	発掘原因
ながとろいせきぐん しもひじりはた いせきなな 長土呂遺跡群 下聖端遺跡Ⅶ	さくしながとろ 佐久市長土呂 530-1 他	20217	9	36°17.05	138°28.22	20190903 ～ 20190909	96	宅地造成 関連工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
長土呂遺跡群 下聖端遺跡Ⅶ	集落址	古墳	住居址 1軒	・土師器 ・石製品	

要 約	台地上に展開する古代の集落の一部分を調査した。周辺の調査事例と同様に古墳時代と考えられる住居跡が検出された。

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第270集
長土呂遺跡群 下聖端遺跡Ⅶ
2020年 3月
編集・発行 佐久市教育委員会
〒385-8501 長野県佐久市中込3056
社会教育部 文化振興課 文化財事務所
〒385-0051 長野県佐久市中込2913
℡0267-63-5321
印刷所 双葉印刷